北海道の23年度上期観光入り込み客数

道経済部 観光局まとめ

前年同期比15.7%減、2936万人にとどまる

震災と原発事故で落ち込む

第２四半期は減少幅が縮小 自粛緩和や避暑目的客で

北海道経済部観光局のまとめによると、平成23年度上期（4～9月）の北海道への観光入り込み客数は実人数で2936万人となり、前年同期比で15・7%減少した。東日本大震災と原発事故による国内外の観光需要の落ち込みで、大きく減少した。

このうち第1四半期（4～6月）は同20・9%減。第2四半期（7～9月）は自粛ムードの緩和や修学旅行先の本州方面からの道内への振り替え客による道内客の回復、道外からの避暑目的の長期滞在者の増加、台湾をはじめとした外国人来道者の回復基調などから減少幅が縮小し、同37・3%減まで回復した。

上期の外国人来道者数（観光入り込み数（延べ人数））は、全道179市町村の23圏域別では、十勝圏が前年並みとなったほかは、いずれの圏域も減少した。

訪日外国人の宿泊延べ数（実人数）　23年度上期の外国人来道者数は前年同期比46・0%減の20万9600人と、ほぼ半減した。

4～6月の第1四半期は震災と原発事故の発生で同61・6%減と大幅に減少。7～9月の第2四半期は台湾をはじめ、回復基調にあったことから減少幅が縮小し、同26・7%と最も低くなっている。

台湾が7万6千人と最も多く、以下、韓国4万2400人、中国2万9300人、香港2万3000人の順。前年同期との比較では、台湾の減少率が11・9%減となった。

訪日外国人来道者数（実人数）は53万人泊で、前年同期比52・5%減（59万人泊減）。圏域別では道央が37万人泊で全道の70・7%を占め、最も多い。

札幌時計台

平成23年度第１・２四半期　観光客入り込み客数（実人数）

区分		日帰り	宿泊	計
第１四半期（４～６月）	道内客	861万人	208万人	1,069万人
	前年同期比	77.4%	88.9%	79.4%
	道外客	1万人	95万人	96万人
	前年同期比	100.0%	79.8%	80.0%
	外国人	－	5万人	5万人
	前年同期比	－	38.4%	38.4%
	合計	862万人	308万人	1,170万人
	前年同期比	77.4%	83.9%	79.1%
第２四半期（７～９月）	道内客	1,308万人	266万人	1,574万人
	前年同期比	86.3%	98.7%	88.1%
	道外客	2万人	175万人	177万人
	前年同期比	24.4%	94.6%	91.6%
	外国人	－	16万人	16万人
	前年同期比	－	62.7%	62.7%
	合計	1,310万人	457万人	1,766万人
	前年同期比	85.9%	95.3%	88.1%
上期計	道内客	2,169万人	474万人	2,643万人
	前年同期比	82.5%	94.2%	84.4%
	道外客	2万人	270万人	273万人
	前年同期比	27.6%	88.8%	87.1%
	外国人	－	21万人	21万人
	前年同期比	－	54.0%	54.0%
	合計	2,172万人	765万人	2,936万人
	前年同期比	82.3%	90.4%	84.3%

※各数値は、千人単位で四捨五入しているため、合計が合致しない場合がある

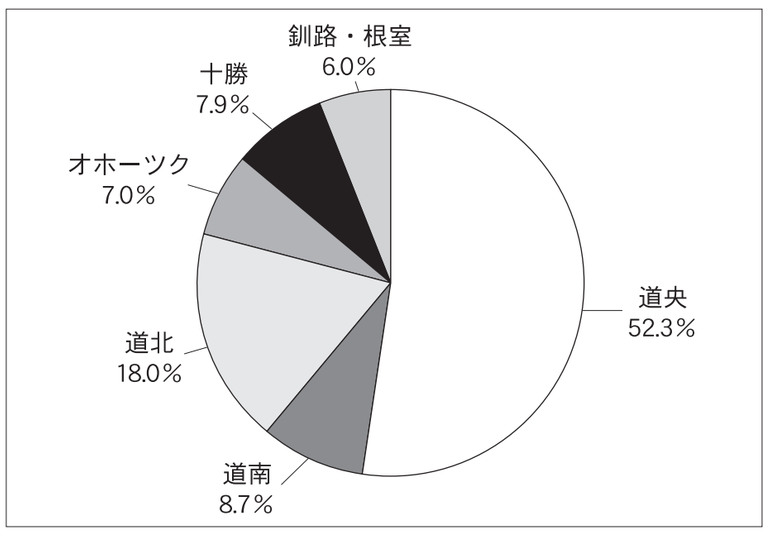
平成23年度第１・２四半期　訪日外国人来道者数（実人数）

国・地域		第１四半期（４～６月）	第２四半期（７～９月）	上期計	構成比	前年同期比
アジア	中国	9,700人	19,600人	29,300人	14.0%	48.5%
	韓国	10,200人	32,200人	42,400人	20.2%	47.1%
	台湾	18,400人	57,600人	76,000人	36.3%	73.3%
	香港	3,600人	16,700人	20,300人	9.7%	42.9%
	シンガポール	1,300人	6,900人	8,200人	3.9%	50.0%
	マレーシア	300人	3,300人	3,600人	1.7%	29.8%
	タイ	300人	2,700人	3,000人	1.4%	29.4%
ロシア		1,000人	2,400人	3,400人	1.6%	54.0%
米国		2,100人	4,400人	6,500人	3.1%	67.7%
カナダ		600人	1,700人	2,300人	1.1%	47.9%
オーストラリア		600人	1,300人	1,900人	0.9%	38.8%
その他（不明含む）		5,000人	7,700人	12,700人	6.1%	57.0%
合計		53,100人	156,500人	209,600人	100.0%	54.0%

観光客入り込み数（延べ人数）の圏域別構成

圏域	観光客入り込み客数	前年同期比	増減数	構成比
道央	4,099万人	92.1%	▲352万人	52.3%
道南	682万人	94.1%	▲43万人	8.7%
道北	1,412万人	91.0%	▲139万人	18.0%
オホーツク	546万人	92.2%	▲46万人	7.0%
十勝	622万人	100.0%	▲0万人	7.9%
釧路・根室	470万人	91.7%	▲43万人	6.0%
合計	7,832万人	92.6%	▲623万人	100.0%

※各数値は、千人単位で四捨五入しているため、合計が合致しない場合がある



各圏域の増加要因

道央圏	口蹄疫の影響により前年度に中止したイベントの開催（白老町、豊浦町等）や夏季の道外からの長期滞在客の増加（倶知安町）などはあったものの、３月の大震災等による影響に加え、５月や９月の天候不順などにより減少した。
道南圏	東北方面からの修学旅行の振り替え（函館市、七飯町等）や、道民の近距離旅行へのシフト（森町等）などによる増加はあったものの、３月の大震災等による影響に加え、５月や９月の天候不順などにより減少した。
道北圏	映画のロケ地となった地域（名寄市）や、地域イベントの集客（天塩町等）などの増加はあったものの、３月の大震災等による影響に加え、５月や９月の天候不順、６月の高速道路無料化実験の終了による圏域への流入減などにより減少した。
オホーツク圏	世界自然遺産登録登録５周年を経過した知床がメディアに頻繁に取り上げられたことや、観光施設の拡充（紋別市）などによる増加はあったものの、３月の大震災等による影響に加え、５月の天候不順、６月の高速道路無料化実験の終了による圏域への流入減などにより減少した。
十勝圏	ガーデン街道の定着、観光施設のオープン・リニューアル（浦幌町等）や、前年度に中止したイベントの開催（上士幌町等）などによる増加があり、３月の大震災等による影響、６月の高速道路無料化実験の終了による圏域への流入減などはあったものの、ほぼ前年並みとなった。
釧路・根室圏	３月の大震災等により団体バスツアー客が減少し、７月以降に回復した地域はあるものの、５月や９月の天候不順、６月の高速道路無料化実験の終了による圏域への流入減などもあり減少した。

調査データ